

著者	信時裕子
タイトル	ラのドファシラ
掲載書(誌)等	信時潔生誕130年 作曲家の庭9 (シン・ムジカ コンサートシリーズ vol.2) [プログラム]
発行所	
年月(日)	2017.02.18
備考	2月18日 日本基督教団 巣鴨教会、2月19日 江崎ホール(静岡) シン・ムジカ主催 公演

URL http://www.nobutoki.sakuraweb.com/muix2skmw-123/#_123

注： PDF は著者最終版

ラのドファシラ

信時裕子

信時潔が東京・国分寺に引っ越す前の住所は？と、潔の三男だった父に聞いた時、即座に出てきた答えは「巢鴨ラのドファシラ」。ラは6、ドファシラは1476。つまり六丁目1476番地を、信時家ではそう呼んでいたようだ。父が生まれたのは国分寺だが、本籍地は「ラのドファシラ」だった。東福寺さんの貸家だったらしい。その地を一度見ておこうと、訪ねて行ったことがある。都電が走る大塚駅を出て10分ほど歩くと、山田耕筰ゆかりの巢鴨教会があり、敷地内には「からたちの花・発祥の地」の碑が建っていた。その少し先に巢鴨小学校があり、その裏手にあるのが東福寺。古い地図と重ね合わせてみたところ、寺の敷地を廻り込んだ坂の上あたりだろうと思われた。もちろん家々はすっかり建て替わり、住所の表示も変わって、昔の面影は全くと言っていいほどない。教会、小学校、東福寺が今も同じ場所に残っているのが有難い。

ベルリン留学から帰った翌年、大正12年1月に結婚、9月の関東大震災に遭遇したのも、その家にいた時だったが、幸い大きな被害はなかったようだ。しかし近隣の被害は激しく、すぐ近くの小石川に住んでいた実父・吉岡弘毅や、親しかったヴァイオリニストの川上淳さんなどが身を寄せたこともあると聞く。12月に長男太郎が生まれ、都下国分寺に移転したのは13年12月。東京音楽学校でベートーヴェンの「第九」を全曲初演した11月29、30日は、まだ巢鴨に住んでいた。チェロのトップ奏者だったそうだから、そこであの旋律をさらったのか。巢鴨で生まれた曲は何か？まず確実なのは「花すみれ」。曲を紹介する大正13年4月の新聞記事に、長男太郎を抱いた写真が載っている。信時家のアルバムにも、同じ時と思われる写真が残っていた。「ルバイヤットより」「野火」は浄書譜に大正12年6月26日の日付がある。

住所と暮らしと作品と。パズルのピースが繋がったところで、もう一度「ラのドファシラ」近辺を歩いてみようか。

写真(略)

地図(略)